

若い先生方にとっては、ずっと昔の 1980 年代中頃に AT (Aggressive Therapy) 研究会という 40 歳以下しか参加できない、全国的な自主研究グループがありました。東海グループ、TCCSG、広島グループ、九州グループ、京大グループ等の先生方が集まった、若手の会でした。そこが JPLSG の始まりだったと私は思っています。当時京都大学の秋山祐一先生が AML 治療プロトコルを考案されて学会で良好な成績を発表されていました。JPLSG の AML プロトコルの原型になった ECM による寛解導入療法で始まっていました。今とは全然違って、医師の裁量が大きく、きちんとした臨床研究は行われていない時代のことです。それぞれの病院でパイロット的に AML 患者さんを治療してみることになりました。そこから AML、乳児白血病、T-ALL と症例数の少ない疾患の全国的治療研究が始まっていったように記憶しています。堀部敬三先生 (もちろん AT 研究会メンバーでした) はじめ多くの先生方のご努力のおかげで、JPLSG から JCCG に発展し、世の中の小児がんに対する理解が深まり、素晴らしい成果があがっています。しかし、小児分野での AMED 研究費獲得は大変難しいと伺っています。

今回の研究助成は女性を中心に支援していただきたいとお願いしましたが、昔々、小児科学教室で、「女はいらない」と言われた頃の私のトラウマから来ているものとしてお許しください。AT 研究会と同様、男女問わず若手の先生方に進んで JCCG の臨床研究をリードしていただきたいと思っておりますので、今回の研究助成の応募資格には喜んでおります。

「おおまさり」は通常の 2 倍くらい大きな、茹でておいしい落花生の品種名です。皆様の研究が大きく発展し、有益な成果が得られるようにと願って研究助成の名前としていただきました。短い期間しかご支援できませんが JCCG の臨床研究の発展にお役に立てれば幸いです。

AT 研究会 OG の一人より